

おみきしゃ 角記者が行く！

令和2年2月15日



今回、ケアヴィラ宝塚広報委員会の新たな活動の一環として、働いているスタッフと広報委員会のメンバーが対談し、仕事に対する思いや心構え、またプライベートなどの素顔に迫っていこうという取り組みを始めました。

記念すべき第一回は、兵庫谷 章（ひょうごたに あきら）施設長です。インタビュアーは広報委員会委員長の角（すみ）が担当しました。ぜひ、ご一読下さい！



兵庫谷 章（ひょうごたに あきら）

昭和48年生まれ。

平成11年3月 信州大学医学部卒。

平成11年5月～信州大学医学部附属病院はじめ
長野県下の病院にて一般外科勤務。

平成16年7月～信州大学医学部附属病院はじめ
長野県下の病院にて呼吸器外科勤務。

令和元年10月～ケアヴィラ宝塚施設長着任。

老健施設の印象、スタッフの印象

角記者：本日はお忙しい中、お時間をとっていただきありがとうございます。今回は、広報委員会の対談企画第1回として兵庫谷施設長へインタビューをさせていただきます。不慣れな点もあるかと思いますがどうぞよろしく願いいたします。

早速ですが、先生が着任されたのは昨年10月でしたね。3ヶ月ほど経過しましたがケアヴィラ宝塚の印象はいかがでしょう。

兵庫谷施設長（以下、施設長）：僕が以前勤めていたところは、地方の大学病院の外科で、いわゆる本当の一番の急性期病棟にいました。当時に比べると、老健（介護老人保健施設）は空気感がゆったりしていて、さほどピリピリした雰囲気もなく、落ち着いて自分のペースで仕事ができるなという印象ですね。ただ、やっぱり病院と違って色々な制約がありますので、検査や薬も限られているというところで、どうしても情報の少ない中で診断をしなければいけなかったり、やりたい治療ができなかったりというところは日々感じているところではあります。

角記者：そのあたり、病院とはやはり違いますね。雰囲気としては老健の方が、ゆとりのある時間が持てているといった印象でしょうか。

施設長：はい。そんな印象を持っています。

角記者：当施設は、療養棟フロア、デイケア、グループホームとあり、それぞれ特徴を持ったスタッフがいますが、先生からみたスタッフの印象はいかがでしょう。

施設長：僕は今まで関東の方にいたので、初めてこちらに出勤した時は、まず最初に皆さんやはり関西弁なんだな～と（笑）皆さん明るくて気さくな方が多いなという印象です。

角記者：なるほど、中には個性が強いスタッフもいると思うんですけども（笑）

施設長：（笑）（笑）（笑）

角記者：今後も先生には温かい目で見守っていただければと私達は思っています。



🍀 プライベートあれこれ

さて、先生は昨年着任されました。昨年といえば、話題になったラグビーワールドカップ、初めての日本開催、私の話になって恐縮ですが、私自身、ラグビーのコーチをしているんです。

施設長：へえ〜。そうなんですか。

角記者：先生はお好きなスポーツはありますか。また過去に何かスポーツはされていませんか。

施設長：ええ、学生時代は軟式テニスをやっていました。ですが、外科医を辞める原因になったのも、2年

位前に腰を痛めまして、それからはスポーツは全然やっていないですね。

角記者：普段お休みの日はどのように過ごされていますか。

施設長：前の職場ではあまり病院から離れられず、ほとんど家族を旅行に連れて行ってあげられなかったもので、こちらに来てからは、家族サービスを兼ねて京都や奈良など有名なお寺や神社に何回か行きました。学生時代の修学旅行で行ったことのある場所でも、この歳になってあらためて見ると全く違ったところに興味がわくのが面白いです。

角記者：特に印象に残っている場所はどこですか。

施設長：11月に行った竹田城ですね。早起きして早朝から登りましたが、ちょうど条件がよく、とても素晴らしい雲海が見られて感動しました。ただ翌日は足腰が少しつらかったです。運動不足ですね(笑)。

施設長：出身といえますか、生まれは横浜で5年くらい居て、次に山梨、大学から長野県なので、一番長く住んでるのは長野県ですね。山梨・長野はほぼ関東の文化に近いです。

角記者：昨年は災害に見舞われましたね。

施設長：そうでしたね。

角記者：またラグビーの話になりますが、ラグビーで言えば、長野県に菅平高原というのがあります。私は夏場毎年行くのですが、先生からみた長野県のふるさと自慢を教えてくださいませんか。

施設長：良くも悪くも田舎ですね。山に囲まれていて、自然も多いですし、海のものはないですけども、山のものはひととおり、果物なんかは美味しいですね。田舎の分だけ人もおおらかな方が多いですし、そういった面では生活しやすい場所ではありました。

角記者：先生の穏やかなお人柄もそういったところからきているのでしょうか。あと、長野県の名産といえば、信州そばですね。

施設長：ああ〜(笑)。そばは有名ですが、そんなにしょっちゅう食べるかというのと、実はそれほどでも(笑)。でもそばはお店も多く何件もありますね。

角記者：今度是非、オススメのお店を教えてくださいなと思います。宝塚の住み心地はいかがですか。

施設長：神戸や大阪が近く便利なわりに、少し郊外に行くと畑や山などがあり、長野県に近い雰囲気を感じられるところが気に入っています。ただ、長野県と比べてはいけませんが、渋滞が多いのは困りますね。





施設長の思い、今後の抱負

角記者：さて、令和2年1月も早や後半にさしかかりました。今年の抱負を教えてください。また、ケアヴィラ宝塚は今後こうありたいなどあればお聞かせ下さい。

施設長：今年の抱負とか1年で区切るにはまだ中途半端な時期かなと思うんですけど、施設として利用者の方が、安心して安全に過ごしてもらえるような施設、これまでも前任の高橋先生の頃から同じだと思うんですけども、自分なりにいいところはそのまま引き継ぎながらまた新しいところも取り入れながら自身も勉強し、皆さんのご協力をいただきながらやっていきたいと思っています。

角記者：こちらこそよろしく願いいたします。今年の抱負をお聞きしましたけれども、先生個人として、座右の銘ってございますか。

施設長：(笑) 実はですね、座右の銘とかってないんですよ。僕も医者になってから25年位になるんですが、特に医療の世界は日々新しいことが出てきて変わっていきます。ついこの間まで常識だと思っていたことが、今は全然正反対ということも珍しくありません。いわゆる固定観念や自分の古い考えにあまりとらわれずに常に新しいことを取り入れて、その時その時の一番良い方法を考えていったほうがいいんじゃないかなというところで、あえて座右の銘というものは実は持っていません。

角記者：なるほど、そういう考え方もあるんですね。

先生が座右の銘をおもちであれば、書初めでパフォーマンスしていただこうと考えていました(笑)。

施設長：あははっ(笑)。習字というのはもう何十年もしていませんし、得意なほうではないので(笑)。

角記者：また機会があれば披露していただきたいと思います。楽しみにしています。

本日は色々とお話を聞かせていただきました。

尚和会もおとし50周年を迎え、これから各施設ますます発展していこうとしています。先生には、疑問に思われるところはどんどんスタッフにお声掛けをいただいて連携をとり、今年のラグビーじゃないですが(笑)、「ONE TEAM」で取り組んでいきたいと思っています。本日は貴重なお時間を頂戴しありがとうございました。

施設長：はい。ありがとうございました。

(取材日：令和2年1月24日)



インタビューのプロフィール

角 和正 (すみ かずまさ)

平成25年3月より3階ケアスタッフとして勤務。

趣味：音楽鑑賞、ラグビー・野球など体を動かすこと

モットー：笑顔で明るく！

対談を終えての感想：「先生とじっくりお話する機会をもてて楽しい時間を過ごせました。上手く皆様に伝わるというのですが…初めてにしては上出来かな(笑)」